

南信州の山城に想う

滝沢 具幸

当館の秋季企画展として、「南信州の山城展」が開かれている。中世、南信州伊那谷に築かれた城館はその数170有余を超えていたとのことで、その数の多さに驚かされる。

天竜川の段丘の縁に築かれた山城は、段丘上の開発とも深い関わりを持って当地の人々と密接に結びついてきたとのことである。日常生活の面だけではなく、人々の心情にも大きな影響を与えていたのではないと思われる。本展では戦国武士たちが寺院を厚く庇護し、地元と強く結びついてきたことを証す出土品、遺物などを展示・紹介している。私ごとになるが、生まれ育った久堅虎岩

の実家からは知久氏の山城であった。「神之峰城趾」の姿を眺めることが出来る。私は神之峰のある風景を自分の庭のように親しく思いながら成長した。霧に煙る幽玄な様子や、秋空に

毅然と立つ姿に神の在す山と敬い仰ぎ見ていた。そして神之峰の姿は、何時も写生の対象でもあった。

神之峰城は知久氏の居城であったが、この山城にいつ頃移居したかははっきりしないという。天文23年武田信玄の侵攻によって落城したが、武田軍の攻略の折、

山本勘助が地団駄を踏んだという「ジタジタ峠」や「物見の松」などの伝承は子供の頃から祖父から聞いていた話であった。標高771メートルの神之峰山頂に立つと、天竜川を挟んで広がる段丘の平坦地を見下ろすことが

出来る。また、遠くたゆたう山波は遙かほるかに恵那山へと続いている。そして知久則直が述懐と題した歌「かわりゆく 世に色かへぬ松

風のおとのみ残る神の峰かな」の歌碑は、まさに山頂の赤松の古木を吹き渡る風の音を今に伝え、往時を偲ばせる。

戦国という時が如何なる時代であり、そこに生きた人達がどのように生活し、何を想い居たかは知る由もないが、混乱した時代にあっても身近な山城は、人々の心の砦でもあったことは想像できるのである。

インフォメーション ⑩→②月

●美術博物館

お問い合わせ：0265-22-8118

◎特別陳列

化石は語る 10/31(土) → 2/7(日)
-生物の進化と古環境-

◎共催展

第62回 長野県美術展 10/11(日) → 10/18(日)
第10回 現代の創造展 2/16(水) → 3/7(日)
-飯田下伊那の作家による-

◎平常展示

峡谷の花 5 10/23(金) → 11/23(日)
-菱田春草と飯田の美術-
藍ゆえに美しく 10/23(金) → 2/7(日)
-綿半野原コレクションの青花-
峡谷の花 6 1/8(金) → 2/7(日)
-菱田春草と飯田の美術-
明治日本画紳士録 2/16(水) → 3/14(日)
-岩崎新太郎コレクションから-

◎プラネタリウム

秋の番組「恐竜絶滅」 → → 11/29(日)
冬の番組「ぬすまれた月」 12/5(土) → 2/28(日)

◎美博特別講座 美の法則 -制作の秘密にいどむ-

第3回 江戸小紋 11/7(土) 13:30~
講師：熊谷博人氏

◎自然講座

キノコのふしぎな暮らし 10/8(木) 19:00~
大田切川の氷期以降の地形変化 10/29(木) 19:00~
人はなぜ木を植えるか 11/21(土) 13:30~
里山の再生 12/19(土) 13:30~
シカ食害対策と森林再生 1/16(土) 13:30~
猛禽ハチクマの生態 2/6(土) 13:30~
ランタンヒマールの自然 2/21(日) 13:30~

◎美博文化講座

ホトケさまのファッション その3 -異形の神仏- 10/27(水) 19:00~
上映会 上村の遠山霜月祭を見る <中郷> 11/15(日) 10:00~
上映会 上村の遠山霜月祭 <上町> 11/15(日) 13:30~
上映会 上村の遠山霜月祭を見る <程野> 11/29(日) 10:00~
上映会 上村の遠山霜月祭 <下栗> 11/29(日) 13:30~
飯田領主堀侯の事績 3 1/24(日) 13:30~
上映会 竜東地域のコト八日行事 1/30(土) 13:30~

◎子ども博物館くらぶ

子ども美術学校 作品展 12/15(土)~12/20(日)
科学工作教室
・天体望遠鏡を作ろう 10/24(土) 9:30~
・ロボットを作ろう 1/23(土) 9:30~
宇宙をのぞこう -親子で学ぶ天文講座・星空観察会-
・秋の星空を探検だ! 10/18(日) 15:30~16:30
・秋の星座散歩 10/18(日) 19:00~20:30
・冬の星空をたずねて 2/20(土) 15:00~16:30
・冬の星座とカノーパス 2/20(土) 19:00~20:30

◆臨時休館日

10/20(水)・2/9(水)・14(日)

◎上郷考古博物館

お問い合わせ：0265-53-3755

◎秋季企画展

南信州の山城 → → 11/29(日)
-戦国に生きた人びと-

◎講座

企画展講座2「吉岡城 -歴史と城郭の特徴- 飯田市の山城」 10/25(日) 13:30~
企画展講座3「南信州における中世山城の全面発掘」 11/15(日) 13:30~
館長講座 1/31(日) 13:30~
考古学講座 2/28(日) 13:30~
◎玉造部の会 -勾玉づくり- 11/8(日)・2/14(日) 9:30~
◎ぎやまん工房 12/12(土)・1/17(日) 9:30~
◎縄文ポシェット作り 12/6(日) 9:30~
◎下伊那歴史探検隊「戦国の山城めぐり」 10/24(土) 8:50~

◎追手町小学校 化石標本室

お問い合わせ：美術博物館へ

◎公開日 10/11(日)・11/29(日) 10:00~16:00
◎化石レプリカ作成 10/11(日) 10:00~16:00

2009 Vol.083

テラス

◎飯田市美術博物館ニュース◎

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" VOL.083
http://www.iida-museum.org/



南信州の山城 — 戦国を生きた人びと — ① 9/19(土) → 11/29(日)

南信州には中世に築かれた170を超える城館跡があります。その中で最も南信州を特徴づけるのは、船山城・大島城・松岡城・上野北本城・飯沼城・飯田城・松尾城・鈴岡城・知久平城・吉岡城といった、天竜川兩岸の段丘の縁に築かれた巨大な山城です。これらの山城は、南北朝の動乱・小笠原氏の内訌・応仁の乱など混乱の渦中にあった南信州の政情を反映して改修が繰り返された結果、大きくなったものです。武田氏や織田氏の侵攻を経て、徳川幕府が出した1615(元和元)年の一国一城令により城としての姿を消していきます。一方で、こうした南信州の山城の巨大化は、段丘上の井水開発という「水の手」の確保なくしては行い得ませんでした。発掘された井水から段丘上の開発と山城との関わりを探っていきます。

混乱した時代であって、知久氏や小笠原氏をはじめ南信州の武士達は寺院を厚く庇護するなど、室町幕府によって十刹に列せられた開

善寺や周辺寺院と積極的に結びついていきます。それは臨済宗大鑑派の僧達が幕府や有力御家人、さらには中国大陸とのパイプを持っていたからに他なりません。そのことを端的に表すのが、多くの山城における天目茶碗・茶壺・茶臼や茶釜といった茶事に関わる遺物の出土といえます。この他、山城からは鍛冶など生産に関わるもの、戦闘に関わるものなどが出土しています。展覧会では、戦国時代の山城を中心に、発掘された遺物などから城や館、そこに暮らした人びとの営みを紹介します。



① 青磁鉢(飯田市駄科北平遺跡)



① 茶釜(松尾城跡)



② 「春秋」 菱田春草 明治43年(1910) 本館蔵

年間パスポート会員限定企画 美術鑑賞の会 ②

美術博物館では、年間パスポート会員の限定企画として、美術鑑賞の会を開催しています。2009年度は、9月26日に菱田春草「菊慈童」についての鑑賞の会をおこない、さらに3回の鑑賞の会を計画しています。美術鑑賞の会では、学芸員による解説の他、ガラスケースのない状態での所蔵作品の鑑賞など、より身近に作品に親しんでいただける特典をご用意しています。平常展示「藍ゆえに美しく」では、11月21日に青花をテーマに鑑賞します。青花は中国の景德鎮で焼かれた白磁にコバルトで絵付けをした磁器で、元代から明代にかけて盛んに製造されました。磁器の魅力は、実際に触れてみたりすることによってより伝わってきます。鑑賞の会では、実際に器に触れていただく機会も設けたいと考えています。

年が明けて2010年を迎えてからも2回の美術鑑賞の会を予定しています。菱田春草「春秋」と岩崎新太郎コレクションがテーマです。こちらでもガラス無しに所蔵作品が鑑賞できる特典をご用意しています。是非、年間パスポート会員にご入会いただき、普段の展示では味わえない、特別な美術鑑賞の時間をお楽しみ下さい。

美術鑑賞の会 [各回とも17時30分から18時30分]

- | | |
|-------------------|----------------|
| 第5回 景德鎮の青花 | 2009年11月21日(土) |
| 第6回 菱田春草の「春秋」 | 2010年1月16日(土) |
| 第7回 日本美術協会と日本絵画協会 | 2010年2月27日(土) |

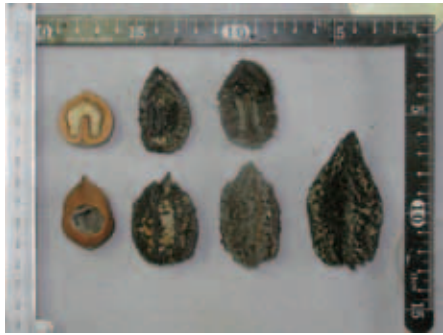
年間パスポートは美術博物館受付で2,000円で販売しています。限定企画への参加資格のほか、販売物の割引、美術博物館ニュース「テラス」の送付などが受けられます。

特別陳列

化石は語る — 生物の進化と古環境 — ③ 10/31(土) → 2/7(日)

化石とは、地層中に残された過去の生物(古生物)の記録です。体そのものを「体化石」、生物が地層中に残した足跡、たべあるき跡、糞などを、「生痕化石」と呼びます。

飯田市出身の長谷川善和氏(当館顧問)寄託標本および、下条村出身の鎮西清高氏寄贈標本には、数多くの無脊椎動物化石や植物化石も含まれています。今回の展示は、これらを中心にして、化石が生物の進化と生物の生きた環境を教えてくれることを紹介いたします。



③ 左より、オニグルミ(下伊那産、現生)、オオバタグルミ(イギリス海岸産)、オオバタグルミ(飯田市川路産)、オオバタグルミ(八王子市北浅川産) 写真上半の3つは内側面



③ 「春秋」 菱田春草 明治43年(1910) 本館蔵

鎮西氏寄贈標本の中に、宮沢賢治が名付けた「イギリス海岸」(岩手県北上川河畔にある国の名勝)で採集されたオオバタグルミ堅果化石があります。宮沢賢治が大正時代にここで採集したオオバタグルミ化石は、1926年に学会で発表されました。これが日本で初めてのオオバタグルミの正式な報告でした。

鎮西氏寄贈標本の中に、宮沢賢治が名付けた「イギリス海岸」(岩手県北上川河畔にある国の名勝)で採集されたオオバタグルミ堅果化石があります。宮沢賢治が大正時代にここで採集したオオバタグルミ化石は、1926年に学会で発表されました。これが日本で初めてのオオバタグルミの正式な報告でした。



③ 肉食動物の糞化石(北米産、古第三紀)



③ 昨年のレプリカ教室の様子

ワークショップ化石レプリカ教室

開催日：11月29日、12月20日、1月24日、2月7日
 時間：午前10時～午後4時 随時受付
 場所：美術博物館「化石は語る」展示室前
 内容：各開催日のテーマの化石(限定アイテム)または、恐竜・アンモナイトなど(各回共通)を選び、歯科用超硬石膏で作ります。材料費1個100円、磁石入り1個200円かかります。11月29日のテーマは、イギリス海岸産のオオバタグルミの化石です。



② 「青花花林文盤」 17c後 本館蔵

表紙の作品 / 菱田春草 「白衣観音」
 明治34年(1901)
 絹本着色 29.9×22.5cm
 本館蔵(岩崎新太郎コレクション)

旧飯田町の商家が収集した岩崎新太郎コレクションは、「新画の岩崎」と評判を取ったように、主に明治-昭和初期に活躍した日本画家の作品が網羅される。しかしその中であって、革新的な作風を展開した日本美術院系の作家の作品は極めて少ない。郷里を同じくする菱田春草についても「南北諸子人物画冊」の巻末に一点が取められているだけである。春草が帰郷し、横山大観とともに天龍川を下ったという年に描かれた作品で、朦朧体期の作風を示している。

